
乱世に舞い降りた蝶～関ヶ原で散った白き義将の物語～

竹中奏華

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

乱世に舞い降りた蝶〜関ヶ原で散った白き義将の物語〜

【Nコード】

N2640F

【作者名】

竹中奏華

【あらすじ】

関ヶ原で散った大谷刑部吉継公という一人の武将について描く

人物紹介（幼年期）～小姓編～（前書き）

初めまして、前は竹中熙子というペンネームでした竹中治と申しま
す。まだまだ未熟ですが宜しくお願い致します。 また本文中では
当時癪^ら、業病といわれたハンセン病のことで吉継公に対する蔑みや
吉継公自身の自嘲がありますが、私本人はハンセン病について蔑み
などはありません。それでも御不快になられる表現がありましたら
御指摘お願いします。 それでは長くなりましたが、先程までで読ん
でやろうと思われた方がもしいらっしゃるのでしたらどうぞ

人物紹介（幼年期）～小姓編～

登場人物（幼少期）

主人公

大谷吉継：（幼名）紀之介きのすけ

出仕エピソード：母親がねねと仲が良かった為

性格：人好きのする性格。他の小姓が喧嘩をしたら仲裁するのは此の御方。

逸話：三成が拳兵すると言った時何度も勝ち目はないと諫めたが、聞き入れなかった為三成の味方になり開いた作戦の穴を埋めようとした。

千人もの人を切り生き血を啜ることで病を治そうとしたという噂あり

石田三成：（幼名）佐吉さきち

性格など：優男。口が達者だが、かなり不器用で無愛想。しかしかなり機転が利く。

出仕エピソード：三献茶。

逸話：処刑間際に喉が渴いたので水を所望したところ

水の変わりに干し柿がでてきたので痰の毒と言いつ断った。

加藤清正：（虎之助）

出仕エピソード：未亡人となった母が秀吉の母の親類であった為出仕。

性格：真面目で極度の潔癖症。

逸話：御手洗いに行く時はとても高いその下駄を履いたらしい

御存じ、七本槍の一人

福島正則：（幼名）市松いちまつ

出仕エピソード：母が秀吉の叔母であったことから出仕。

性格：喧嘩っ早いが仲の良い者への気遣いはかなりの物。

逸話：母里太兵衛に酒を無理矢理飲ませたところ、

見事飲み干したので秀吉から拝領した名槍日本号を盗られた。

此の事がもとで黒田節が作られました。

御存じ、七本槍の一人で他の六人より多い五千石（他は三千石）。

エピソード

1600（慶長五年）九月十五日

誰もが知っている関ヶ原の戦いが起った日。

天下分け目の大戦^{おいくさ}

誰もが知っている西軍の敗北・・・

誰もが知っている小早川の裏切り・・・

その裏切りを予見した一人の将の事を貴方は知っていますか？

秀吉に百万の兵を指揮させてみたいと言わしめた将の事を・・・

業病と言われ蔑まれた病を患い殆ど動くことも出来なかったというのに力戦した将の事を・・・

それは一羽の蝶の物語・・・

乱世に生を受け、関ヶ原で散った白き義将の短くも長い話

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2640f/>

乱世に舞い降りた蝶～関ヶ原で散った白き義将の物語～

2010年10月28日07時43分発行